

2026年6月21日（日）第558回・三島の魅力再発見とまちづくり

第558回 ラジオ放送録

グラウンドワーク三島アクショントーク：三島の魅力再発見

水と朝の風景を核とした「地域DNA」によるまちづくり戦略

三島の価値の核心：地域DNA

NUMBER ONE ASSET

水と朝の風景

源兵衛川の朝霧や水鳥の羽ばたきなど、地元住民も見逃しがちな「朝」の美しさは、他都市に負けない絶対的優位性。

THE STRATEGY

「抜ける」戦略

単なる資源活用ではなく、歴史・文化・営みのストーリーを伴う「地域DNA」を軸に、他市と明確に差別化する。

EVENT ANNOUNCEMENT

「AIジャンボ」出版記念 & 交流イベント

6.21(日) 15:00 ~

¥4,750 (書籍代込)

「この本を買わないと人生最大のマイナスになる」 - ジャンボ

♀ 人格形成の「足場」としての信仰

マイケル・ジャクソンの活動の根底には、母から教わった「才能を輝かせ、人々を喜ばせる使命」があった。

- ✓ 海外では信仰が人間の「握り所」を理解する指標となる
- ✓ 富を持つ者が社会に還元する責任（コッツウォルズや華僑の例）

出演者情報 & 次回予告

J M O

☺ ゲストの室伏さんと進行の岡本さんは幼稚園～中学の同級生と判明！

ACTION ITEMS

- 次回、地域DNAと富士山について深掘り (@室伏さん)
- イベント会場へ5,000円札を持って来場 (@リスナー)

ラジオ番組「グラウンドワーク三島・アクショントーク」第558回では、ホストの渡辺豊博（ジャンボ）さんと岡本真由美さんが、ゲストに室伏強さんを迎え、三島市の隠れた魅力とそれを活かしたまちづくりの可能性について深く掘り下げた。

番組では、ジャンボさんによるイベント告知やマイケル・ジャクソン映画への考察に続き、室伏強さんが提唱する「水」と「朝の風景」を核とした三島の価値、そして他市との差別化を図る「地域DNA」の重要性が議論され、三島活性化のための具体的な視点が共有された。

番組導入とイベント告知

番組は、NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博（ジャンボ）さんと岡本真由美さんの進行でスタートした。

ジャンボさんは冒頭から「スリルとサスペンス」をモットーとする独特の語り口を展開。自身のラジオ放送時、その声に反応して飼い犬が静かになるというユニークなエピソードを披露し、場を和ませた。

続けて、6月21日(日)午後3時から、三島商工会議所で開催されるイベントへの参加をリスナーに強く呼びかけた。このイベントは、ジャンボさんの著書「AIジャンボ」の出版記念講演会を兼ねており、参加費は交流会費2,000円と書籍代2,750円の合計4,750円が必要だと告知。

「この本を買わないとサインと握手はもらえず、人生最大のマイナスになる危険性がある」とユーモアを交え、三島の過去、未来、光と影を語るイベントの魅力をアピールした。

マイケル・ジャクソン映画の宗教的側面に関する考察

ジャンボさんは、最近鑑賞したマイケル・ジャクソンの伝記映画に深く感銘を受けたと語った。

特に心を打たれたのは、マイケルの母親が「エホバの証人」であり、彼が精神的に苦しんでいた際に「神から与えられた才能を輝かせ、多くの人々を喜ばせることがあなたの使命だ」と説いた場面だったという。

このエピソードを引き合いに出し、ジャンボさんは自身の海外経験を振り返った。

中国やイギリスなどで親しい間柄になると、必ず信仰について尋ねられると述べ、新興や宗教、人としての信条が、その人の人格形成の「足場」となり、拠り所を知ることによって人間性が理解できると考察する。

イギリス・コッツウォルズの小さな村の教会が、村出身者からの多額の寄付で美しく維持されている例や、台湾の華僑が故郷の基金に多額の寄付をする文化を挙げ、富を持つ者が、社会に還元する責任と義務という考え方が、マイケル・ジャクソンの活動の根底にもあったのではないかと推察した。

ゲスト紹介と三島の価値の核心

ゲストとして、一般社団法人富士山国際学会の事務局を運営し、グラウンドワーク三島の理事も務める室伏強さんが紹介された。

旅行業や外国人技能実習生の支援、三島商工会議所青年部など、長年にわたり三島・伊豆のまちづくりに携わってきた経歴を持つ。

ジャンボさんから「三島の価値のナンバーワンは何か」と問われた室伏強さんは、迷わず「水」であると断言した。

水がもたらす美味しい野菜や美しいせせらぎといった資源だけでなく、自身が朝の散歩を始めてから発見した新たな魅力を力説した。

特に、源兵衛川で夜明けと共に水鳥が飛び立つ光景や、川面に立ち上る朝靄の幻想的な美しさは、昼間には決して見られない格別なものだと語る。

他の街も歩いた経験から「三島の朝はどこにも負けない」と述べ、地元住民が気づいていない価値がそこにあると指摘した。

地域 DNA と「抜ける」まちづくり戦略

議論は、三島の埋もれた資源をいかにして活かすかというテーマへ深化する。室伏強さんは、単に流行りの農作物を取り入れるような「地域資源」の活用だけでは、他市との競争に埋もれてしまうと警鐘を鳴らす。

重要なのは、歴史や文化、人々の営みといった「ストーリー性」を伴い、時間をかけて形成されてきた「地域 DNA」を見つけ出し、活用することだと強調した。

そして、他市にはない、三島独自の魅力で「抜ける」（＝頭一つ抜け出し差別化を図る）ことが不可欠であり、その最有力候補が「朝の風景」であると主張した。

昼の観光客の賑わいや夜の繁華街では他市に及ばないかもしれないが、「朝」という時間軸で勝負すれば、三島は圧倒的な優位性を持つと分析した。

ジャンボさんもこれに同意し、多額の市民負担を伴う三島駅前開発のような事業においても、こうした地域固有の DNA を盛り込むことの重要性を説いた。

放送後の雑談と意外な同級生発覚

番組の楽曲紹介中、出演者間で和やかな雑談が交わされた。

その中で、室伏強さんが、岡本さんの旧姓を口にしたことをきっかけに、二人が幼稚園、小学校（北小）、中学校（北中）と同じ学校に通っていた同級生であることが判明した。

マンモス校だったため在学中はお互いを認識していなかったものの、この偶然の再会にスタジオは驚きと懐かしむ声に包まれた。

また、来週も室伏強さんをゲストに迎えることが確認され、次回は「地域 DNA」の話をさらに深掘りし、富士山の話にも触れることが予告された。